

平成26年度 酒田市人口減少対策(若者定着等)に係る総合的な展開

平成 26 年 7 月

《現状と課題～青少年人口の減少と若者の流出～》

- 酒田市の青少年人口割合(10～19歳)は、昭和40年を最後に50%を割り込み、平成22年には4分の1以下に低下している。
- また18歳から22歳の人口の落ち込みも激しく、18歳と19歳で約1,000人の減少が見られ、そのうち23歳ごろには約300人しか転入していない。
つまり、流出者の3割程度しか戻っていない状況にある。
- 高校卒業後、庄内地域に残る割合は27%、進学後庄内地域に戻る者を含め将来的に庄内地域で働く割合は42%にとどまっている。

《地元定着等を促進する展開》

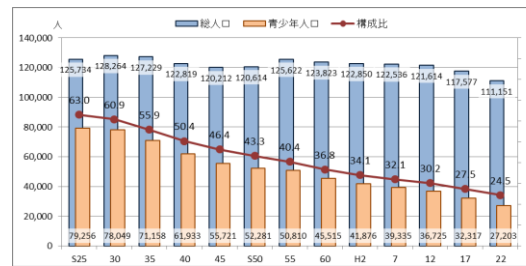
- 酒田市では、「社会減対策」を喫緊の課題として捉え、地元高校、地元大学、地元企業等と課題を共有しながら、若者の「地元定着」、「地元回帰」、「UIJターン」を促進する取組みを展開する。



【課題のポイント】(「酒田で働くという選択」の後押し)

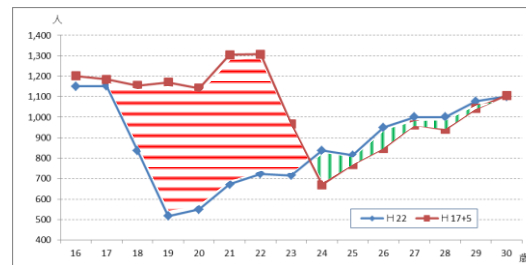
- 地元定着
- 地元回帰、UIJターンの促進

○青少年人口とその割合(酒田市)



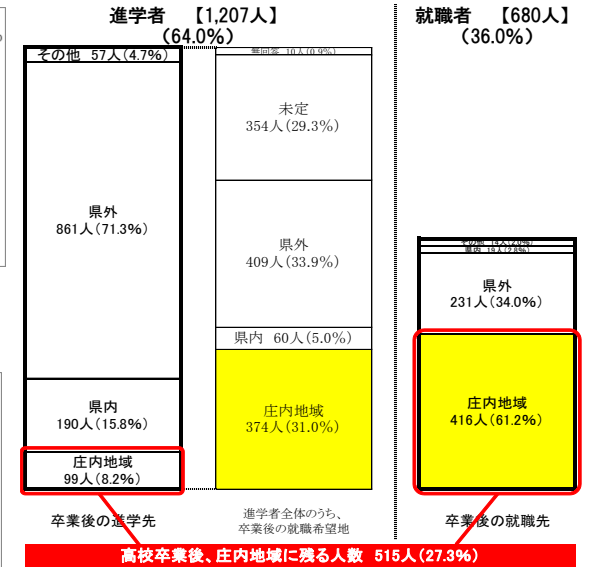
・青少年人口割合はS40を最後に50%を割り、H22は27,203人と総人口の24.5%まで減少(青少年人口の減少)

○若者の流出入の状況(酒田市)



・年齢別人口では18～22歳の減少が激しい。(若者の流出)
・18、19歳の若者2300人中流出者1000人に対し、23歳ごろの流入はその3割、300人程度

○高校生の進学先と就職先(庄内地域)



卒業後の進学先
進学者全体のうち、卒業後の就職希望地
卒業後の就職先

高校卒業後、庄内地域に残る人数 515人(27.3%)

将来的に庄内地域に残る人数 780人(41.9%)

・高校卒業後、庄内に残る割合は、進学希望者64%のうち8%、就職希望者36%のうち61%。全体では30%弱。
・庄内地域から転出した70%のうち、将来的に庄内地域に残る割合は、トータルで42%。
(高校生地元就職率(H25.3):村山90.8%、置賜80.4%、最上63.1%)

地 元 定 着

◎高校生地元定着促進事業【新規】(1,130千円)

高校生の地元就職を推進するため、生徒と教諭を対象とした市内企業見学会を実施。

・東北公益文科大学との連携(継続)

東北公益文科大学が採択された文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」と連携し、地域活性化につながる地域リーダーとしての人材育成を進める。

◎高校生と地元企業の連携強化【拡充】

山形県(庄内総合支庁)と酒田地区雇用対策協議会(酒田市・商工会議所)共催による企業と学校側の懇談会を継続し、新たに地元就職に関する保護者向け説明会を開催。

・産業技術短期大学校庄内校との連携(継続)

学生の人材育成と地元企業への定着を推進するため産短大教育振興会との連携を継続するとともに、進路指導部との情報交換や検討を継続する。

地元回帰、UIJターンの促進

◎UIJターン促進事業【新規】(830千円)

市内事業所が県外で開催される合同就職ガイダンスにしたときに助成し、本市出身学生や県外就労者の地元企業への就業機会の拡大と、若者の地元定住を促進する。

・UIJターン人材バンクによる積極的な情報提供(継続)

酒田市ホームページ上で情報提供し、UIJターン希望者と市内企業の雇用成立に支援する。

地元高校、地元大学等高等教育機関、地元企業等と行政機関との若者地元定着に関する懇話会の開催

○地域産業の振興

○地元就職に関する意識・機運の醸成

○生活基盤となる「就業の場の確保」
○Uターン希望者に対する「一貫した相談体制」
○生活環境の整備
○地元企業の「情報発信」
○郷土愛の醸成